令和８年度富山市安全で安心なまちづくり推進協議会　議事録（会議概要）

１．日　時　　令和８年１０月８日（木）　１４時から１５時まで

２．場　所　　ToyamaSakura ビル　502 会議室

３．出席者　　会　長　松下　愼太郎（富山市自治振興連絡協議会）
副会長　西野　満男　（富山市身体障害者福祉協議会）
委　員　村家　幸伸　（富山市ＰＴＡ連絡協議会）
木下　翔太　（富山国際大学）
辻澤　亮子　（富山市認定こども園協議会）
山田　智子　（富山市中学校長会）
室井　康志　（富山県高等学校長協会）
今川　清司　（富山商工会議所）
武部　賢昭　（富山県商工会連合会）
松田　真理　（富山中央防犯協会）
山下　行雄　（富山南防犯協会）
山崎　郁子　（富山西防犯協会）

事務局　防災危機管理部　増山部長、清水次長
危機管理課　川崎課長、山田主幹、中村主幹、出島副主幹

関係課　消費生活センター　関谷所長

４．内　容　（１）　開　　会
（２）　あいさつ　　防災危機管理部　増山部長
（３）　報　　告　　令和８年上半期の犯罪発生状況について
（４）　議　　事　　富山市安全で安心なまちづくり推進条例に基づく令和８年度の取り組みについて
（５）　閉　　会

５．主な質疑等

①　犯罪発生状況について	
今川 委員	新聞を見ると、外国人の関わる犯罪も多い。国籍が日本なのか、外国なのかそのようなデータの取り方は市として行っているか。 富山に住んでいる人もいれば、県内から訪れる人もいる、文化であったり、社会的な習慣も違うため、対処法もあると思う。
事務局 （山田）	全体の犯罪の情報であるため、日本人や外国人では分けていないが、警察では集計等をしているので、今後必要であれば区別していきたい。
②　懸垂幕について	
西野 委員	安全で安心なまちづくり推進啓発用の懸垂幕を市役所だけではなく、行政センターにも設置してはどうか。
事務局 （川崎）	来年度の予算要求の時期であるため、検討したい。
③　資金給付の金額について	
西野 委員	犯罪被害者の奨学金資金給付事業であるが、物価の上昇で学校の入学金や授業料も上昇している。金額を見直してはどうか。
事務局 （川崎）	奨学金給付制度のほか、福祉資金やひとり親資金の制度がある。金額はある程度整合性を取り、現在の金額としている。国からの支援や被害者を支援する団体もあり、総合的に含めると一定の金額になると考えている。
④　学校の指導について	
山田 委員	中学生に対する声かけ、つきまとい事案が報告されている。自転車盗難のうち、約８割が無施錠での被害であるため、中学生は部活動や塾、習い事などで帰宅時間が遅くなることがあり、日没が早まる季節は、不審者遭遇や交通安全上のリスクが特に高まる時期でもある。学校においても、自転車の施錠指導、防犯意識の向上、危機管理意識の醸成に努めたい。

⑤　行動計画について	
山崎 委員	行動計画の「振り込め詐欺」という言葉は、一般的には「特殊詐欺」に集約されている。名称を特殊詐欺に変えた方が良いと思う。
事務局 （川崎）	行動計画は毎年見直ししており、来年度には反映する。
⑥　安全で安心なまちづくりについて	
山崎 委員	各地域に地区センター等の窓口は残っていても、全ての手続きや相談が完結できないとなれば、本庁へ行かなければならないことも出てくる。 今後さらに行政機能の集約が進む中で、地域から行政につながる際の負担についても考えておく必要がある。 防犯というと犯罪を防ぐことが中心になるが、安全で安心して暮らせるということは、困った時に行政や地域の相談先へ住み慣れた地域からつながりやすいことも含まれるのではないか。 これから行政機能の在り方を検討する際には、高齢者等が年齢を重ねても住み慣れた地域から行政や地域社会につながりやすい環境をどう維持していくか、ひとつの視点として考えてほしい。 この協議会がこれからも富山市民にとって、行政と地域が意見を交わし、安全で安心なまちづくりを一緒に考えていく場として継続されることを願っている。

※発言内容を一部整理して掲載しています。